

関川(光星)世界選手権V照準

W杯ボルダー好成績 八戸市長に喜び報告



スポーツクライミングのワールドカップ(W杯)ボルダー第4戦(6月・チェコ)女子で自己最高の3位となり、年間総合でも自己最高の4位と健闘した八戸学院光星高校3年の関川愛音選手(17)が28日、八戸市庁を訪れ、熊谷雄一市長に喜びを報告した。ボルダー

熊谷市長⑤に今季の成績を報告する関川選手④。中央は木村校長補佐

一問一答

関川選手と熊谷市長との主なやりとりと、面会後の取材での一問一答は次の通り。

—W杯を終えて。

かなり成長を感じたが、反省点もたくさんある。世界選手権に向けもっと(調子を)上げていきたい。

—今季好調の理由は。

去年のW杯が終わってからコーチと動画などを見て話し合い、いろいろな部分を改善した。練習を頑張ったのが一

で日本代表入りが確実視される9月の世界選手権(韓国・ソウル)に向け「目標は1位」ときっぱりと語った。関川選手は2月のボルダー・ジャパンカップ女子で2位となりW杯出場権を3年連続で獲得。W杯は4、6月に行われ、第1戦(中国)で初の決勝進出を果たして6位となり、第2戦(ブラジル)は5位、第3戦(米

国)は準決勝13位で決勝を逃したが、第4戦で躍進し初のメダルを獲得。第5戦(スイス)は8位、最終戦(オーストリア)は7位で締めくくった。

同校の木村一夫校長補佐、母・夕子さんと市庁を訪れた関川選手は、初戦から結果を出したことで「だいぶ自信がついた」と笑顔。荒大で準決勝の成績が最終

W杯 成長実感、反省点も

番大きい。元々練習量は多いが、今年は練習の質や体の調子を大事にして、なるべく毎回の練習をフレッシュな状態で迎えられるようにした。

—課題は。

W杯決勝での戦い方が難しかった。予選と準決勝の各課題の制限時間は5分だが、決勝は4分と短くなる。今季は決勝進出が(当初の)目標だったので、決勝を意識した練習をしていなかった。世界選手権に向けて4分を意識した練習を増やしていきたい。

結果になった第4戦を「プラハの課題(コース)は相性が良く、決勝があったらもうちょっと上に行けたかも」と振り返った。

今後「どの大会でも全部勝ちたい」と意欲を見せる関川選手を、熊谷市長は「ものすごい成長を感じた。世界選手権では金メダルを目指し頑張って」と激励した。(千葉真由美)

—W杯年間総合4位をどう受け止めたか。

本当は3位以内に入りたかった。でも上位3人はW杯のいずれかのラウンドで優勝しているの、自分は4位が妥当。上位との差は縮まっており、手応えはある。来年はもっと上を目指す。

—多くのメッセージや声援が寄せられている。

本当にうれしく、力になっている。良い結果で恩返しできよう頑張りたい。(まとめ・千葉真由美)